



刊 夕
行發日五十月九
（刊休日翌日祭臘日）

炭礦民俗誌續稿

山口彌一郎 (二)

二十九、山師金掘師行着候寫してあり他は慶長十九年
ら其處に於て一宿甲寅正月本多上野介、本多
爲致通可事
三十二、鋪人は金掘師外に
手階一人之外無用たるべしである
三十三、鋪内に食洋器爲
致申間じ事深き仔細之
有事なり
三十四、山師金掘師儀は天
下にいらざる地に樂しみ
世の實を出す依て諸士の
席に付不苦事
三十五、山師金掘師の儀
は金山師次は銀山鐵山次
は銅山の順たる可
四十一、一山之據は踏出へ
渡り踏出之據は一山へ渡
るべし

科の夜

徳重千歳

この五十三箇條は「諸國
島々金掘師免許の事」或は
「坑夫歴寶」等として慶長
頃諸國山方へ配布された
今に於て其の後寫本が印刷され
て今に至つてゐる。記者の
手許にある一は、慶長十六
年（一六三九）四月十六
日慶州日影嶺に於て家康が
本多中務大輔に下された
のを、明石明五郎を経て諸
國山中へ配布されたもの

信濃の山

山崎義男

この山の各物である翁と
雷鳥と、女性——僕はこれ
三つの中から何時も乗鞍の
回顧を念ふ。なほ此所に秘
められてゐる駒草の群落、
幾細な露女のやうな神姫の
屋で爲の聲や、天水桶に落
す水の音に惹かれて無残な死を

小旗振振りつゝ、
萬歳の旗天地もさげよと
かたけ結ばれたる手と手
ははなれ
上氣した面に擧手の禮も
男ましき
若人よ

手

若人よ

病む姉の青白き手を見る
毎に
吾が心暗くとざせり
細き指折りて
過ぎし日くれば
眞白きフリイヂヤ
また淋し

竹莊煎條

小野務平

修竹環莊涼吹新
綠陰深處寄吟身
一箇龍吟香尤好
清逸成世外人

見送り

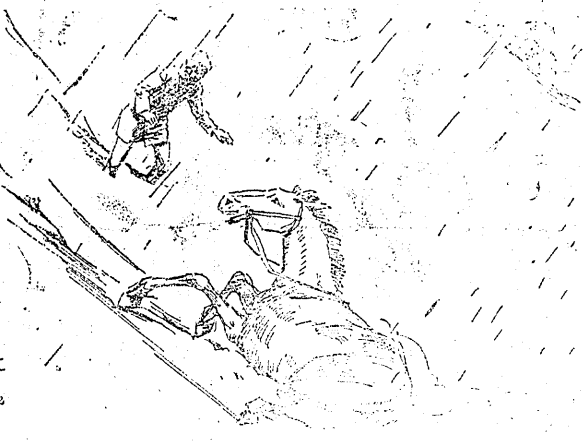
菊池洋子

送る人のよめきの中に
けられたるまじきベルの音
は、
秋は暮れゆく
秋は暮れゆく

高橋是清

松浦泉三郎作

チカラで二日間休養した
寒氣と、稀薄な空気に
慣れたら、一行の元氣も全
く回復した。十六日午前十
時、更に荷物を整理して、
一行はチカラを後にして、
向ふ所はアンデスの最高
地である。眞先に土人が
一人、鞭を擧げて立つた。
首に鈴を付けた先導のミッ
ルが土人に従つた。それに
導かれて、荷物を満載した
チカラで二日間休養した



數十頭のミッルが続いた。
鈴の音が、寒氣の中に河を
響かした。
（ミッルは馬である。鞍が山
馬と馬との間に生れた開口の
動物）
ミッルの後から一行が黙
々と進んで来た。山口は坑
夫一同を元氣付ける爲にと
自から徒歩でその先頭に立
つてゐた。
嶮峻な道が無様に續いて
その日にカザルカは一
泊朝朝、小池技手坑夫一
同引卒出發させた是清は山
口と共に、ヘレン礦山支
隊カザルカに送られた。だ
が、山口は馬の自由を
配人カザルカに送られた。
馬は、少しくおいて、
別路をとつて出發した。カ
ザルカは、是清は左手の
腕を、

然の事に驚いて、突如に同
様馬足を止めやうとした。
馬が前足を擧げた。と、腹
帯かゆるんでゐた。鞍が山
馬と馬との間に生れた開口
の動物を乗せてズル／＼
と滑つた
「いかに！」
山口は叫んで拍車を入れ
た。鞍がズリと抜けた。
山口は死んだか、山口は
叫んで擧げ登ると
「山口！山口！」
山口は死んだか、山口は
叫んで擧げ登ると
「山口！山口！」
山口は死んだか、山口は
叫んで擧げ登ると
「山口！山口！」

「宜かつた！」
山口は痛みをこらへてニ
ッコリ笑つた。そして漸く
立上つた
カザルカは馬を下りて、
右手の谷へ馳け下りてゐた
山口の白馬は百餘尺の断崖
を轉落し、深い雪中に首を
突込み、四足を空に上げて
もがいてゐた
カザルカは雪を掻いて、
白馬を引き起した。四肢か
ら、横腹から、口中から、
血が流れてゐた
山口は顔を覆つた
カザルカは、白馬を勢り
ながら、赤く染んだ雪中か
ら、二人を見上げて微笑し
た

開院廣告

平町 磐城共濟病院
電話 六四一
院長 長谷部喜久
内科 醫學士 長谷部喜久
外科 醫學士 多田篤雄
小兒科 醫學士 川 繁
耳鼻咽喉科 東京醫學士 市川 繁
性病科
産婦人科 醫學士 草刈 邦彦
（毎週日曜日）
レントゲン科 醫學士 長谷部喜久
藥劑師 吉本 孝平
事務局長 高畑 清志
◎診療時間 午前八時ヨリ午後六時マデ
◎往診午後 急患ハ此ノ限リニ非ズ
◎病室完備 入院隨意

御禮

生ビール賣出し以來御恩負を蒙り有
難う御座いました。
御座にて豫定の樽數も賣盡しまし
た。就ては本日よりおでんを初めま
した。尙一層御恩負の程を御願申上
ます。
平一丁目
電話 二六三番

日東商會

電燈、動力、新設増設及改修
ネオンサイン設計及取付
甲種、乙種電話設備
礦業特設電話設備
呼鈴、室内電話設備
専屬電工設備材料ノ撰擇ト親切ラモツト
トシテ工務事務シマス。
何卒御引立ノ程御願申シマス。
公認 電話 四二八

大至急 會員募集

年齢、學歷を問はず堅實なる婦人を
望む
平町 紺屋町
上原家政婦會
電話 二二番

實家、静岡産地、茶問屋

生産家カラ直接需用家へ
香味自慢生一本小笠銘茶
安價提供出來ル皆様ノ店
買テ喜ビ賣テ喜ブ理想ノ店
電話 三七番
阿部石炭商店

福島縣立代用精神病院

郡山脳病院
郡山市外大槻村針生
電話 九二五番
院長 金 森 五郎
入院隨時

平製氷會

日本水産 特約
平製氷會
電話 二八三番
電話 二八三番

日本石油株式會社特約店

關影商店平支店
本店 水戸線下館驛前
電話 六一番
支店 茨城縣土浦町田
電話 八二四
支店 常磐線本館前
電話 四五四
支店 常磐線四倉前
電話 四八
支店 久慈 濱支店
電話 三七番
支店 小名浜支店
支店 海上給油 江名濱
支店 及津橋所 江名濱

阿康藥局

御知らせ
玉ナフタリン
防虫劑
開業三十週年記念謝恩デー大好評を博しましたに
つき引續き 毎月十五日を謝恩デーと定め御
買上金五十錢以上の御客様に「玉ナフタリン」を差
上げます。
トフノルを無料でつけて上げます。
平町古賀治明藥局下
電話 四四番
相模所 電話 四四番
橋本口 電話 四四番

